

みなさん、こんにちは。

いかなごを炊く匂いが漂う時期になりました。暖冬の影響で毎日の水揚げが少なく、小さなものはいないようで、店頭に並ぶいかなごは例年より大き目。魚たちの世界にも暖冬の影響があるようです。

## 1. ユース昆虫研究室 2006 標本を展示しました

3月11日(日)、昨年の4月から明石公園を拠点にして、昆虫観察と採集を続けていた「ユース昆虫研究室2006」(県立人と自然の博物館と共催)に参加している中学生が1年間の成果をまとめ展示しました。当館1階体験学習室に標本箱6箱と写真パネル21枚を展示中。また、「明石公園の昆虫2006」と題した調査結果の冊子(解説編とリスト編)も作成しました。

カマキリ、チョウ、コガネムシ、トンボやハチなど種類ごとに分類し、視覚的にもデザインされた並べ方になっています。調査結果については中学生一人一人が採集した昆虫の解説文を担当し、採集した日時、場所、昆虫の特徴を詳しく解説しています。

兄弟で参加した前田慧(さとし)くん、慈(めぐむ)くん(ともに朝霧中2年生)は「1年間、明石公園で観察してとっても興味深いものがあった。クロマダラタマムシ、ヒラズゲンセイなど貴重な昆虫がいることも驚きです。大型でかっこよく、首のあたりや背中模様がかっこいいヤノトラカミキリにも出会いました」と熱っぽく話してくれました。



展示指導する八木先生(右端)



まっすぐ貼れてるかな?



もうすぐ完成



甲虫がいっぱい!



チョウの並べ方にもこだわりが



タマムシもいろいろあります

中学生を指導している八木剛先生(ひとく主任研究員)によると、「集まっている子どもたちは根っからの虫好き。フィールドで観察し、事実を的確につかみ、自分なりの切り口で整理できるようにトレーニングしています。昆虫を集め、差異と同一性を発見し、自分で整理し、情報発信する能力は、他の学問や日常生活にも十分応用できるはず」と話してくれました。

参加しているひとりの中学生に「この虫は?」と質問すると、「これは の仲間、 ? なんです。なかなか同定するのが難しくて」自信たっぷりに答える姿には、成長の跡が感じられました。

## 2. 「昭和なつかし博覧会」後期の部 3月21日(水・祝)まで

3月17日(土) 11:00 ~ 14:00 ~ おっちゃんの紙芝居とクイズ

今年度はこの日がラストとなります。(要:博物館観覧料)

3月の布ぞうり作り3月18日(日)申し込み(電話受付)は終了しました。

3月分の十二単・鎧兜・衣冠の着付け申し込み(電話受付)は終了しました。

3月19日(月)20(火)は休館日です。